

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17時



みほらあいり
三原愛梨さん 9歳（小学2年生）

＜表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています＞

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明（30字程度）③掲載するお名前 ④学年（年齢）⑤保護者の方の連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

＜編集委員募集のお知らせ＞

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

＜発送作業のボランティア募集＞

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

7月10日号の予定			7月25日号の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	7月8日（金）	午後	封入作業	7月22日（金）	午後	愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊）
発送作業	7月11日（月）	午前	発送作業	7月25日（月）	午前	

インタビュー ①

前回の飛島村の交流会で、「東日本大震災の被災者で、飛島村でカフェをやっている人がいるよ」と聞き、とても気になっていました。飛島村の田園風景の中にたたずむ『プラスワンカフェ』。このカフェをパートナーと2人で経営するのが福島県相馬市出身の佐藤裕里恵さん。

東日本大震災の時は、当時勤めていた宮城県の障害者支援施設で被災しました。目の前まで津波が来たものの浸水は免れましたが、他の地域にあった施設では、津波の被害で多くの利用者、職員が亡くなりました。生き残った職員仲間から聞いた亡くなった方々の最期の話や、仕事として、亡くなった施設の方々を死体安置所で確認したという経験を、涙もみせず淡々と話す佐藤さんを見ていて、想像を超える辛い想いをされたのだなと胸が痛くなりました。職場がある程度落ち着いたところで、佐藤さんは岡山へ避難しました。その半年後に知人の紹介で飛島村の物件と出会い、今のカフェを開くことになりました。

愛知に避難した当時は、言葉と味噌の味には驚いたけれど、飛島村の皆さんのおかげですぐに溶け込めたそうです。カフェは今年で3周年を迎えます。今は飛島村の方だけでなく、県外から通う常連さんもいるそうです。カフェのゆったりとした気持ちのよい雰囲気は、佐藤さんとパートナーの人柄と、飛島村の方々の地道な温かいサポートが作りだしたものだと感じました。

佐藤さんが県外避難を選んだ理由の一つは、近所にいた原発関連に勤める人が、原発が危ない状態だから県外へ逃げろと伝えてくれたこと。もう一つは、「もうこれ以上被ばくしたくない」という想いからでした。高校時代に偶然イベントで見た、東海村の事故で被ばくし、亡くなった方の写真が衝撃的で、



＜プラスワンカフェの店内の様子＞

その時から被ばくについて調べるようになったそうです。

「震災から5年が経った今感じること、伝えたいことは？」との問いに、「大きな地震を甘く見ないで、しっかり備えて欲しい」「命を優先にして、家を見に戻ったりせず、安全な場所にすぐ逃げて欲しい」等、たくさんの具体的なアドバイスが出てきました。そして「今まではなかなか話せなかったけれど、自分の体験から得た教訓を、同じような施設の防災に役立ててもらいたい」と話していました。

インタビューを終えて私が学んだことは、「日頃から正しい知識を持つことが、災害の時に生死を分ける」、「近所のつながりが災害の時の心の支えになる」。これは被災の程度に関係なく、多くの被災者から学んだことと重なります。日頃の意識と人脈が大事だということ、被災経験のない人たちにも実感して危機感を持ってもらうことが、体験者の役目だと感じました。震災から5年が経ち心の整理がついてきた佐藤さんと一緒に、防災について何かできたら…と思いが巡りました。その第一歩として、私も『プラスワンカフェ』に通って常連の一人になりたいと思っています。『プラスワンカフェ』の食事、スイーツは、カフェの定番メニューにキラリとした個性が加わったオリジナルメニューです。ぜひ、皆さんも味わってみてください。

(あおぞら編集委員 山本由香)

インタビュー ②

佐藤さんの故郷の相馬には釣りでだいぶ通いました。あの新鮮な魚の味を忘れてほしくないと思います。談話中、勤め先の施設での話をされましたが、津波は佐藤さんのご実

家近くまで迫っていました。ほんの少しで免れ得る事実、全ての人が免れ得ない事実がありました。

(あおぞら編集委員 伊藤廣昭)

佐藤さんは大変な被災体験をされていたのに、静かなお声と表情でお話されました。ここに至るまでの思いは、私の想像を超えるものでした。そして津波体験だけではなく、

福島放射能からの避難であることを、もう少しで聞き逃すところでした。

(あおぞら編集委員 戸村京子)

リレートーク

このメッセージを書くことになって、あの日から、今、この先にいろいろと思いを巡らせてみました。

私は、当時、小さな会社で働いていました。そこでは、地元を活気づけようというコンセプトで数社が集まって、あるプロジェクトを成功させるために、仲間とがんばっていました。しかし地震で私は、仲間との夢を諦めなければならなくなり、子どもは外に出るにも、長袖、長ズボン、マスク、帽子と言う格好で、ようやく学校に通っていました。シングルマザーである私は、子どもを食べさせるために、仕事を探し、子どもの健康を考え、県外に出る決心をしました。

たどり着いたのは、愛知県岡崎市です。

1年間は、支援があることなども知らなくて、親戚や知人もいない私は、誰とも交流できず、子どもと2人で、何とかやっていました。1年を過ぎたころ、被災者支援センターがあるということを知りました。

やっと、仲間がいるんだ、愛知県にも福島の人がいるんだと、安堵した記憶があります。

6年目を迎えて、いろいろな人に助けられながら、ようやく子どもも中学生になり、私も周りの方にいろいろと支援をいただきな

がら、毎日、必死に孤独やうつ病と闘いながら、今の生活を安定させることができるようになりました。

また、福島の友人たちも、活気を取り戻し、みんな、未来に向かってがんばっているのを知ると、うれしく思います。

私は、仕事以外で交流する方法がなかなかわからず、プライベートでは閉じこもりがちでしたが、いろいろな方と話をし、交流を持つことの大切さを、愛知県に来て、本当に実感しています。

今までは、子どもを主体に回っていましたが、中学生になり、私は1人で行動する時間が増えました。最近、写真を撮ったり、美術館に行ったりと、少しずつ、時間の過ごし方を試行錯誤しているところです。

これからの未来、たくさんの人と出会い、自分が、孤独な時に助けてくれた人たちと同じようにはできなくても、自分なりに、
<子どもと夏に竹島人との交流をもつてい
きたいです。



(避難元福島県郡山市 A.I)

東日本大震災発生から5年が経過しました。真宗大谷派（京都・東本願寺）では、東本願寺現地復興支援センター（仙台市・東北別院）を拠点として支援活動を続けるとともに、原発に依存しない社会の実現に向けた取り組みや呼びかけを行っています。真宗大谷派（東本願寺）岡崎教区（三河地方及び静岡県の大谷派寺院・門徒の区域）においても、「災害ボランティア実行委員会」を中心に継続的な支援を行っています。

その支援活動の一つとして、岡崎教区は「あそびにおいでんプロジェクト」と共催で、被災者支援寺院ホームステイ事業を継続して行っており、今回で4年目となりました。

今年は、5つの寺院において、5組の家族が3月28日～31日まで3泊4日のホームステイを行い、31日には三河別院（岡崎市野添町）で花まつり（お釈迦様の誕生を祝う仏事）に参加し、子どもたちは一輪の花をお供えし、お釈迦様に甘茶をかけて手を合わせました。その後はゲームや「劇団そらのゆめ」による人形劇「カメジローおつかいにいく」を観劇し、子どもたちの笑い声が本堂に響き渡っていました。

夕方からは、「ら・びーた」によるコンサートが行われました。「ら・びーた」はイタリア語で「命」の意味で、原発事故を共に考える仲間間で結成されたソプラノ歌手、ピアニスト、トロンボーン奏者の3人組ユニットです。こ

の事業には4年連続の登場で、なかでも今回初の試みの「はらぺこあおむし」では、紙芝居をしながら歌い、子どもたちだけでなく、大人たちも一緒に歌い楽しみました。演奏が終わるとアンコールが起こり、終了後には子どもたちから「ら・びーた」の3人に「ありがとう」の言葉と共にお花が手渡されました。その後は、タップリンさんの手品ショーを楽しみ、タップリンさんの絶妙な間合いの笑いに、時間を忘れて楽しみました。そして福島県からの愛知県内への避難者も一緒に参加し、夕食を共にしながら交流を行いました。その晩は三河別院に1泊し、翌日4月1日それぞれ帰宅されました。

原発に依存する生活は、他者の犠牲の上に成り立つ豊かさを享受する社会を是としており、人間の罪への無自覚の表れだと思います。命は生きる場所を失っては生きられず、原発に依存し続けることは、人の関係性に分断をもたらし、命を支える大地を根こそぎ奪い取られてしまう危険の上に絶えず生活することになるのではないのでしょうか。人の命が育まれる大地とは、人と人が共に生きあえる社会だと思います。私たちができることには限界がありますが、いま大切なことは、被災された人々の悲しみに寄り添い、引き裂かれた関係性を回復していくことではないかと改めて考えさせられました。

（真宗大谷派（東本願寺）岡崎教務所 窪田昌展）



< 「ら・びーた」によるコンサート風景 >



< 参加者での集合写真 >

支援団体紹介（愛知県社会福祉協議会）

社会福祉協議会（社協）は、地域の住民や関係機関・団体、行政機関の参加を得て活動を進め、地域福祉の推進を目的としている公益的、自主的な組織で、全国の市区町村、都道府県・指定都市に設置されています。

福祉に対するニーズが多様化する中、地域の人々が抱えているさまざまな福祉課題を地域全体の問題としてとらえ、皆で支えあい・学びあい“誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり”を目指しています。

愛知県社会福祉協議会ではさまざまな事業が行われておりますが、今回はその中の「愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター」で行われている主な活動についてご紹介します。

1、ボランティア・市民活動について

「ボランティアコーディネーター養成講座」の開催や、「防災・減災カレッジ」での企画運営などを通じて、市民・企業のボランティアや社会貢献活動を応援しています。

また、毎年12月頃には「社会貢献活動推進セミナー」と題し、社会貢献活動に関心のある企業やNPOなどとシンポジウムやワークシ

ョップを通じ、新たな協働の方策等を見出す機会となるセミナーを開催しています。



＜「社会貢献活動推進セミナー」シンポジウムの様子＞

2、福祉教育について

福祉読本「ともに生きる」や福祉教育ハンドブックを愛知県内の小学校へ配布し、福祉教育の推進を図っています。

また、県内の小・中・高校などで障害者や高齢者等との交流を通して、地域の福祉課題

や生活課題に気づき、車いすや手話の講義・実技習得等を通じて、豊かな人間性や共に生きる力を育むことを目的とした「福祉実践教室」の開催もしています。

3、その他

愛知県社協ボランティアセンターでは、相談員を3名配置し、相談業務を行っています。また、県内市町村社協ボランティアセンターの登録ボランティアグループの調査集計や県内のボランティア等の情報を掲載したメールニュースを月に2回送信し、市町村社協

ボランティアセンターの活動支援や情報発信を行っています。



＜愛知県社協ボランティアセンターの相談員＞

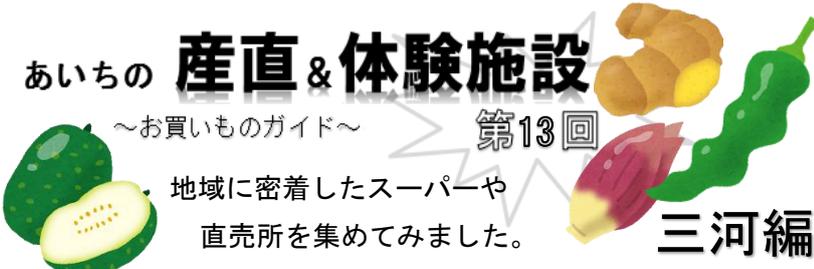
愛知県社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒461-0011 名古屋市東区白壁 1-50 愛知県社会福祉会館 2階

TEL052-212-5504 FAX052-212-5505



あいちの **産直&体験施設**
 ~お買いものガイド~ **第13回**
 地域に密着したスーパーや
 直売所を集めてみました。
三河編



今月号で紹介していない産地直売所・ふれあい体験施設については、県農林政策課が制作したインターネットサイト「あいちの農林水産産地直売所・ふれあい体験施設」でご覧になれます。



暑い日が続きますが、こんな時は新鮮な夏野菜を食べましょう！夏野菜には 体温を下げる効果もあるので、暑さ対策にもなるかもしれません。皆さまの食材探しの一助になればと、地域に密着して新鮮でおいしい夏野菜を提供しているお店を紹介します。さまざまな料理で夏野菜を楽しみましょう。

PICK UP

おかざきファーマーズマーケット

場 所： 暮らしの杜（岡崎市羽根町字若宮 30 暮らしの学校
 東側隣接地）
 連絡先： 0564-53-6190（岡崎商工会議所事務局）
 営業日時： 毎月第1・3土曜日 9：00～12：00



岡崎商工会議所では、「地産地消とまちづくり」をテーマに、おかざきファーマーズマーケットを開催しています。消費者が作り手から直接買うことで、お互いがもっと近寄り、よく知り合い、気持ちに通じあう関係になることが、よりよいまちづくりにつながると考えています。

<三河のスーパー&産地直売所>

No	施設の名称	住所・場所	営業日時	連絡先
①	フードオアシスあつみ 福江店	田原市古田町エゲノ前 125	9:30~21:00 (定休日: 1月1日、4日、5日)	0531-33-0757
②	スーパーよしかね 野依台店	豊橋市野依台 1-34-7	9:00~20:00 (定休日: 毎週日曜)	0532-39-3121
③	玄気 豊川店	豊川市八幡町鐘鋳場 247	10:00~19:00 (定休日: 毎週月曜日 ※祝・祭日の場合は営業)	0533-86-5679
④	サンヨネ 蒲郡店	蒲郡市八百富町 7-34	10:00~19:00 (定休日: 年始4日間、4月と10月に各1日)	0533-66-1919
⑤	道の駅 デンパーク安城	安城市赤松町梶 5	9:00~17:00 (定休日: 毎週火曜日 ※祝日の場合は翌日)	0566-92-7111
⑥	産直つのひら	西尾市津平大入 464	10:00~17:00 (定休日: 毎週月・木曜日)	090-4257-7639 (代表番号)
⑦	あおいパーク「もぎたて広場」	碧南市江口町 3-15-3	9:00~17:00 (定休日: 毎週月曜日 ※祝日の場合はその翌日)	0566-46-0016

●産直施設の営業時間は異なることがあります。定休日などをご確認のうえ、お出かけください。施設のホームページからも詳細を確認いただけます。





旬のお出かけ情報

～テーマパーク～



家族でどこに行こう？そんな時におすすめなのが、大人も楽しいテーマパークです！愛知県内には個性豊かなテーマパークが数多くあります。乗り物に乗るだけではなく、身近な食べ物やお菓子を実際に作る工程を、じっくり眺めることができる工場見学もおすすめです。今まで行ったことのないテーマパークを新規開拓したい、どこへ行ったらいいのかわからないという方に参考にしていただけたらと思います。

PICK UP

博物館 明治村

場 所： 犬山市字内山 1

アクセス： 「名鉄犬山駅」からバスで 20 分

「名古屋『名鉄バスセンター』」「栄」から直行バス運行

連絡先： 0568-67-0314



明治時代を中心とした重要文化財 10 件を含む 60 以上の建造物を移築・保存・展示する野外博物館です。数多くの歴史的資料を収集・展示するほか、当時のベストセラー小説より再現・アレンジしたグルメや「日本最古級の蒸気機関車」に体験乗車いただけるなど、まるでタイムトリップしたかのような雰囲気をお楽しみいただけます。

魅力溢れる明治村へ是非お越しください！

<愛知県内のテーマパークなど>

No	名称	場所	アクセス	QRコード
①	名古屋港シートレインランド	名古屋市港区西倉町 1-51	地下鉄「名古屋港駅」から徒歩約 5 分	
②	野外民族博物館 リトルワールド	犬山市今井成沢 90-48	名鉄「犬山駅」からバスで約 20 分	
③	お菓子の城	犬山市新川 1-11	名鉄「江南駅」からタクシーで約 20 分 名鉄「楽田駅」から徒歩約 20 分	
④	愛知ヤクルト工場（要予約）	日進市藤枝町前田 5	名鉄「日進駅」からタクシーで約 10 分、徒歩約 30 分	
⑤	コカ・コーライーストジャパン東海工場（要予約）	東海市南柴田町トの割 266-18	名鉄「名和駅」から徒歩 20 分	
⑥	めんたいパーク とこなめ	常滑市りんくう町 1-25-4	名鉄「常滑駅」から徒歩約 10 分	
⑦	安城産業文化公園デンパーク	安城市赤松町梶 1	JR「安城駅」からバスで「安城更生病院」乗り換え「デンパーク」	
⑧	ラグーナテンボス ラグナシア	蒲郡市海陽町 2-3	JR「蒲郡駅」から無料バスで約 15 分	

●入園料金など詳しい情報は各施設のホームページ等をご確認ください。



スタッフ紹介 ～ 事務局 原田義明 ～

支援センターのスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。
第17回は事務局スタッフの原田義明です。



今年4月から支援センターでお世話になっています。5年前は、県庁で地方機関の物品の発注の仕事を担当していました。地震の発生により物流に大混乱をきたし、納期内に納入されないことがあったことを思い出しました。

前の職場（名古屋市中央卸売市場本場）では、福島第一原発から漏れた放射能の地図が貼ってありましたが、3月になると誰かが取り外してしまいました。しかし、水産物などの出荷に今なお、地震被害が影響を与えているように思いました。

支援センターのある愛知県東大手庁舎は、私がかつて勤務していました旧総合保健センターの建物であり、ここで働けるのも何かの縁だと思っています。公務員としての経験を活かし、少しでも皆様の力になれるよう努めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★整理収納アドバイザー2級を取得しました。机の上だけでも片づけられたらいいなと思ひました。(J.I)
- ★4月から5月にかけてのウクライナは、白樺の新緑が柔らかく、とても美しかった！また、自然の営みは、チェルノブイリ原発の人災30年を超えて、街を覆いつくすすごさもある。それは、私たちが自然とどのように共存するかによる。(K.T)
- ★小学校の運動会に参加しました。生徒数が1000人を越えているのに、一人ひとりが主役になって伸び伸びとして見えました。素晴らしい運動会でした。(Y.Y)
- ★熊本、大分地震で亡くなられた方、被害に遭われた方に心よりお見舞ひ申し上げます。東日本大震災被災者としてできることがあります。一緒に考えてみませんか？(E.K)
- ★阿蘇の牛乳や熊本の野菜をお店で見ると、被災地を想ひます。(T.N)
- ★囲碁ガールが急増・・・プロの囲碁大会にNHK杯があり、毎日曜日の午後テレビ放映されている。先日、女流棋士・藤沢里菜3段(17歳)が高名な男性棋士(9段)から勝利した時、私は飛び上って喜んだ。世間では「囲碁ガール」が急増中とのこと。皆さん！囲碁をやりませんか？(H.T)

<7月の交流会等イベントカレンダー>

開催日	イベント名	開催地域
7月3日(日)	第11回 ふれあいひろば小牧	小牧市
7月10日(日)	ふれあいひろば豊橋	豊橋市
7月16日(土)	第46回 囲碁クラブ交流会	東区
7月20日(水)	里山を歩きましょう	豊田市
7月26日(火)	セ・リーグ公式戦 巨人 vs 広島	岐阜市
7月28日(木)～ 7月31日(日)	人形劇団むすび座 夏休みこども劇場 2016「はっぴいキッチン/だぶだぶ」	中区

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら



〒460-0001
名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階
愛知県被災者支援センター
TEL: 052-954-6722
FAX: 052-954-6993
Mail: aozora@aichi-shien.net

- 詳しくは定期便に同封のチラシをご覧ください。
皆さんのご参加をお待ちしております。